

## 二人三脚の苦悩

平成21年10日3日

彼女、Aちゃんは、中学2年生の1月下旬、突然学校に行かなくなった。たまたま母親の同級生の娘さんが当フォーラムでリーダーをやっていた。その彼女が、自分も参加する4月初めの「豪州・ペンリス市春ゆめの大自然交流合宿」にAちゃんを誘ってくれた。2月下旬、急遽Aちゃんは同交流合宿に参加することになった。

3月中旬、母親が彼女の相談に来た。本人の心理テストを採っても、不登校の素因が見あたらなかった。彼女は小学校1年生の時、体操をやり始めた。体操教室が二つ隣の町にあり、母親がずっと送り迎えをして、彼女の体操を支えてきた。運動神経の良さに厳しい練習で彼女の体操は上手になっていくが、体の成長と練習との狭間か中学生になったら体操をやめたいと漏らしたことがあったと言う。中学2年生になった時、それまでずっと一緒に体操をやってきた友達が部活をやめた。上手な後輩も出てくる。8月、再びやめたいと漏らした。私は1月下旬、学校に行かなくなる直前に何があったか聞いた。そう言えば、体操の新しいルール of 講習会に出た後から学校を休み始めたと言う。確か今回のルール改定の一つに、女子の鞍馬が横長から縦長に変わったという記憶があった。Aちゃんはそれに恐怖心を抱いたかも知れないと思った。「でも、〇〇〇にはそれはどうってことないと思う。」と、母親は答えた。体操は好きだけど、楽しみから競技になっていく。しかし、母親と二人三脚でやってきたから、言い出せない。その苦悩か2月、赤ちゃん返りもあったと言う。

そう思った私は本人と話した。やはりそうだった。ペンリスでの交流合宿の最後の送別会、自然発生的に起こったダンスのサークルで、私は「〇〇〇！〇〇〇！」とAちゃんコールを起こした。彼女は、2度バク転宙返りを披露し、拍手喝采を浴びた。実にさわやかな笑顔を見せた。その夜、彼女と話し合い、部活をやめる決意をした。

帰国後、彼女は学校に通い始め、私は母親と話した。母親は「先生、私に考える時間を下さい。」と言った。確かにここまでやめずに頑張ってきた体操、しかも、4ヶ月後の中体連で終わる。そこで活躍する娘を夢見るのも母親ゆえだと思う。2週間ほど経った4月中旬、母親が来た。「娘のために、娘の気持ちを受け容れることにしました。」と言ってくれた。その後、彼女はダンス部のあるT高校に進学した。